



日本学術会議 第26期
記者会見（令和7年10月28日）
資料1-2

社会と学術界におけるジェンダー平等・ 公正の実現を目指して － 2030年に向けた課題－

島岡 まな

日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会幹事

第6次男女共同参画基本計画小分科会委員長

10月28日（火）

提言作成体制

- **日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会**（16名）を親委員会とし、**第6次男女共同参画基本計画小分科会**（15名）が中心となって、学術会議の第一部（人文社会系）、第二部（医歯薬生命系）、第三部（理工情報系）の各ジェンダー関連分科会である**第一部総合ジェンダー分科会**（16名）、**第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会**（13名）、**第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会**（16名）で方針決定、執筆分担、素案の作成を行い、それについて意見を出し合い、1年以上かけて完成した。
- コアメンバー：GE分科会高橋委員長、森副委員長、
島岡第6次男女共同参画基本計画小分科会委員長、玉田副委員長（第三部GD分科会委員長）、皆川幹事、三成委員、樋田第二部生命科学GD分科会委員長、三尾第一部総合G分科会委員長

ジェンダー・エクイティ分科会

委員長	高橋 裕子	(第一部会員)	津田塾大学学長・教授
副委員長	森 初果	(第三部会員)	東京大学物性研究所教授
幹事	島岡 まな	(第一部会員)	大阪大学法学研究科教授
幹事	熊谷 晋一郎	(第二部会員)	東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授
	岩井 紀子	(第一部会員)	日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学JGSS研究センターセンター長
	嶋田 洋徳	(第一部会員)	早稲田大学人間科学学術院教授
	竹山 春子	(第二部会員)	早稲田大学理工学術院教授
	樋田 京子	(第二部会員)	北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授
	加藤 一実	(第三部会員)	国立研究開発法人産業技術総合研究所フェロー
	玉田 薫	(第三部会員)	九州大学主幹教授・副学長
	伊藤 公雄	(連携会員)	京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授
	上田 修功	(連携会員)	理化学研究所革新知能統合研究センター副センター長／NTTコミュニケーション科学基礎研究所客員フェロー
	木村 草太	(連携会員)	東京都立大学政治学研究科法学部教授
	中野 裕美	(連携会員)	豊橋技術科学大学シニア研究員・名誉教授
	名越 澄子	(連携会員)	埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科客員教授
	原田 慶恵	(連携会員)	大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点特任教授

第6次男女共同参画基本計画小分科会

委員長	島岡 まな	(第一部会員)	大阪大学法学研究科教授
副委員長	玉田 薫	(第三部会員)	九州大学主幹教授・副学長
幹事	皆川 満寿美	(連携会員)	中央学院大学現代教養学部准教授
	岩井 紀子	(第一部会員)	日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学JGSS研究センターセンター長
	嶋田 洋徳	(第一部会員)	早稲田大学人間科学学術院教授
	高橋 裕子	(第一部会員)	津田塾大学学長・教授
	竹山 春子	(第二部会員)	早稲田大学理工学術院教授
	樋田 京子	(第二部会員)	北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授
	佐古 和恵	(第三部会員)	早稲田大学理工学術院教授
	森 初果	(第三部会員)	東京大学物性研究所教授
	伊藤 公雄	(連携会員)	京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授
	中野 裕美	(連携会員)	豊橋技術科学大学シニア研究員・名誉教授
	名越 澄子	(連携会員)	埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科客員教授
	原田 慶恵	(連携会員)	大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点特任教授
	三成 美保	(連携会員)	追手門学院大学教授／奈良女子大学名誉教授

第一部総合ジェンダー分科会

委員長	三尾 裕子	(第一部会員)	慶應義塾大学名誉教授／東京外国語大学名誉教授
副委員長	島岡 まな	(第一部会員)	大阪大学法学研究科教授
幹事	芳賀 満	(第一部会員)	東北大学高度教養教育・学生支援機構教授
幹事	臼井 恵美子	(第一部会員)	一橋大学経済研究所教授
	岩井 紀子	(第一部会員)	日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学JGSS研究センターセンター長
	嶋田 洋徳	(第一部会員)	早稲田大学人間科学学術院教授
	高橋 裕子	(第一部会員)	津田塾大学学長・教授
	白波瀬 佐和子	(第一部会員)	東京大学大学院特任教授
	原田 範行	(第一部会員)	慶應義塾大学文学部教授
	野口 晴子	(第一部会員)	早稲田大学政治経済学術院教授
	小島 優子	(連携会員)	国立看護大学校看護学部教授
	窪田 幸子	(連携会員)	学校法人芦屋学園芦屋大学学長／神戸大学名誉教授
	二神 枝保	(連携会員)	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	三成 美保	(連携会員)	追手門学院大学法学部教授／奈良女子大学名誉教授
	三浦 まり	(連携会員)	上智大学法学部教授
	後藤 弘子	(連携会員 (特任))	千葉大学理事/副学長

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長	樋田 京子	(第二部会員)	北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授
副委員長	竹山 春子	(第二部会員)	早稲田大学理工学術院教授
幹事	熊谷 日登美	(連携会員)	日本大学生物資源科学部食品開発学科教授
幹事	東原 和成	(連携会員)	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	熊谷 晋一郎	(第二部会員)	東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授
	竹中 麻子	(第二部会員)	明治大学農学部農芸化学科教授
	石塚 真由美	(連携会員)	北海道大学大学院獣医学研究院教授
	久保庭 雅恵	(連携会員)	大阪大学大学院歯学研究科教授
	名越 澄子	(連携会員)	埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科客員教授
	原田 慶恵	(連携会員)	大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点特任教授
	坂内 博子	(連携会員)	早稲田大学理工学術院教授
	室田 佳恵子	(連携会員)	島根大学学術研究院農生命科学系教授
	來田 享子	(連携会員)	中京大学スポーツ科学部教授

第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長	玉田 薫	(第三部会員)	九州大学主幹教授・副学長
副委員長	堀 利栄	(第三部会員)	愛媛大学大学院理工学研究科教授
幹事	中村 卓司	(第三部会員)	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授
幹事	中野 裕美	(連携会員)	豊橋技術科学大学シニア研究員・名誉教授
	伊藤 由佳理	(第三部会員)	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授・副機構長
	大場 みち子	(第三部会員)	京都橘大学工学部情報工学科教授
	佐々木 葉	(第三部会員)	早稲田大学理工学術院教授
	西原 寛	(第三部会員)	東京理科大学特任副学長・総合研究院長
	大島 まり	(連携会員)	東京大学大学院情報学環教授
	川口 慎介	(連携会員)	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門主任研究員
	斎藤 毅	(連携会員)	東京大学大学院数理科学研究科教授
	須山 章子	(連携会員)	東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センター技術主査
	関根 千津	(連携会員)	合同会社 RiseWave啓代表
	千住 智信	(連携会員)	琉球大学工学部教授
	野尻 美保子	(連携会員)	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授
	渡辺 美代子	(連携会員)	日本大学常務理事／特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事

提言案を回覧し、意見徴収した分科会

- ・ **科学者委員会**ジェンダー・エクイティ分科会
包括的反差別法小分科会
- ・ **社会学委員会**ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会
- ・ **史学委員会**ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会
- ・ **法学委員会**ジェンダー法分科会・社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会（包括的反差別法検討小委員会）・「新たな人権の研究」分科会・生殖補助医療と法分科会
- ・ **政治学委員会**民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会（女性の政治参画小委員会）
- ・ **経済学委員会**ワークライフバランス研究分科会

※分野横断的に多角的な視点から検討

日本学術会議の過去10年間の関連提言等

- ①25期提言「大学・研究機関における**男女共同参画推進と研究環境改善**に向けた提言 一日本学術会議アンケート調査結果を踏まえて一」（日本学術会議）令和5（**2023**）年8月29日
- ②25期提言「学術の振興に寄与する**研究評価**を目指してー望ましい研究評価に向けた課題と展望ー」（科学者委員会研究評価分科会）令和3（**2021**）年11月25日
- ③24期提言「社会と学術における**男女共同参画の実現**を目指してー2030年に向けた課題ー」（科学者委員会男女共同参画分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）令和2（**2020**）年9月29日
- ④24期提言「『**同意の有無**』を中核に置く**刑法改正**に向けて ー性暴力に対する国際人権基準の反映ー」（法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会ジェンダー政策分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会）令和2年（**2020**）9月29日
- ⑤24期提言「**性的マイノリティの権利保障**をめざして（Ⅱ）ートランスジェンダーの尊厳を保障するための法整備に向けてー」（法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）令和2年（**2020**）9月23日

⑥23期提言「**性的マイノリティの権利保障**をめざして ―婚姻・教育・労働を中心に―」（法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）平成29（**2017**）年9月29日

⑦23期提言「**学術の総合的发展**をめざして―人文・社会科学からの提言―」（第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会）平成29（**2017**）年6月1日

⑧23期提言「科学者コミュニティにおける**女性の参画を拡大**する方策」（科学者委員会男女共同参画分科会）平成27（**2015**）年8月6日

⑨22期提言「**男女共同参画社会**の形成に向けた**民法改正**」（法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会複合領域ジェンダー分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会）平成26（**2014**）年6月23日

⑩25期見解「**女性の理工系進学を加速**するために必要な、初等中等教育へのジェンダー視点導入と望ましい理数系教育の環境整備」（第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）令和5（**2023**）年9月22日

⑪25期見解「**性差研究**に基づく科学技術・イノベーションの推進」

（科学者委員会男女共同参画分科会）令和4（**2022**）年11月10日

⑫25期報告「新しい学術支援・研究職の待遇改善の必要性について—**ジェンダー平等が学術を再生産**する」（社会学委員会ジェンダー研究分科会）令和5（**2023**）年9月27日

⑬24期報告「**理工学分野におけるジェンダーバランス**の現状と課題」

（第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）令和2年（**2020**）6月5日

⑭22期報告「**学術分野における男女共同参画促進**のための課題と推進策」

（科学者委員会男女共同参画分科会）平成26（**2014**）年9月30日

※これだけ問題が指摘されながら、日本のジェンダー平等は
どこまで進んだだろうか？

提言の背景

- **2025年**：日本の**女性差別撤廃条約**批准（1985年）から**40年**、**北京女性会議**（1995年）から**30年**
- WEFの**ジェンダーギャップ指数**による国際ランキング：148か国中**118位**（2025年）
←G7で**最下位**、OECD加盟国38か国中**37位**
- 2003年のいわゆる**2030目標**：**2025年でも未達成**（2020年提言＊で指摘）
- **男女共同参画社会基本法**成立（1999年）、内閣府に**男女共同参画局**が設置されてから**四半世紀以上経過**、**5次**にわたる**男女共同参画基本計画**（5年×5＝25年）を**策定・実施**してきたにもかかわらず、**ジェンダー平等が遅々として進まない原因**を探り、より**効果的にジェンダー平等を加速**させる必要がある
- 本提言は、前半（提言1＆2）で**ジェンダー平等推進の基本方針**を、後半（提言3～5）で特に**学術界における実現策**を示す

＊ 提言「**社会と学術における男女共同参画の実現を目指して—2030年に向けた課題—**」（2020）

提言 1 「ジェンダー主流化」を具体的な政策プロセスとして実行するべきである

- **現状・課題**：男女共同参画社会基本法は「ジェンダー主流化」のための規定を置き、2000年の計画において専門調査会も設置され、**男女共同参画影響調査**を開発したが、**調査は行われず、「ジェンダー主流化」は実現していない。**
- **具体的対策**：第6次男女共同参画基本計画には**調査実施を明記し、影響調査専門調査会を設置し、全府省庁及び地方自治体がこの調査を実施できる体制を組むべきである。**

提言 2 男女共同参画基本計画の実効性を確保すべきである

- ・**現状・課題**： 5 次にわたる男女共同参画基本計画の**実効性確保のための実施体制が機能していない**
- ・**具体的対策**： ①**専門調査会**の復活、「**実施方針**」の策定と監視、**年次報告の公表**、②**男女共同参画推進本部**及び**担当官会議**、各府省副大臣を本部長とする「**男女共同参画推進会議**」の復活、③**進捗状況の評価**、進捗に問題がある場合の**理由分析**、男女共同参画会議による府省への**意見具申**、④**人員・予算の確保**

提言3 ジェンダーに基づく差別・暴力の防止を、 予防、加害者処罰、被害者救済の各段階において さらに強化するべきである

- **現状・課題**：刑法性犯罪の改正（2023年）等一定の進捗はあるものの、有名芸能事務所の元経営者や芸能人の**性加害**、自衛隊や検察組織等の**公的機関**や**民間企業・大学（研究機関）**における性加害、**セクシュアル・ハラスメント**、**国会や地方議会**における**セクハラ対策の不備**等、依然として**多くの問題**あり
- **具体的対策**：個別の法整備だけでなく、**女性に対する暴力**の背景には**差別**があることを認め、**ジェンダーに基づく差別を包括的に禁止する法整備**が必要

提言 4 すべての分野の人材育成において、ジェンダー平等・公正を実現するべきである

- **現状・課題**：理工学・生命科学・人文・社会科学分野においては、依然として**ジェンダー不平等の現状**あり（理工学：高等教育機関の卒業・修了生に占める女性割合はOECD加盟38か国中最下位、生命科学：分野によって偏りあり、人文社会科学：上位職に進むほど女性割合低減等）
- **具体的対策**：女子の大学及び大学院進学率の向上、②理工学・生命科学分野の女子学生・女性教員比率の向上、③全分野の上位職・意思決定機関における女性比率の向上、④ジェンダーバイアスへの対応、⑤ポジティブ・アクションの更なる実施、⑥ワークライフ・バランスの取れたハラスメントのない研究環境整備、⑦「任期付き競争的環境」において困難を抱える女性への支援等が急務

提言 5 日本の学術を一層振興させるために、あらゆる学術分野にジェンダー視点を浸透させるとともに、学術の振興を通して社会のジェンダー平等・公正を実現するべきである

- **現状・課題**：学術界のジェンダー不平等が解消されておらず、公平で豊かなデジタル社会の実現が期待できない。学術振興のために不可欠な性差医療やジェンダード・イノベーションも発展途上、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（SRHR）の浸透も不十分
- **具体的対策**：学術研究における多様なジェンダー視点の確保、性差医療やジェンダード・イノベーションの発展、包括的性教育の実施、各種の大型研究プロジェクトや科学研究費補助金等の審査基準におけるジェンダー的指標の導入

提言1・2：制度の再構築
提言3：差別防止の法整備

日本社会全体

教育・研究への波及・**学术界**

法と制度改革

提言4：人材育成の平等化
提言5：学術研究における
ジェンダー主流化

【最終目標】ジェンダー平等・公正な社会の実現